

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392200206		
法人名	株式会社 イズミ		
事業所名	グループホーム真清田 (Aユニット)		
所在地	愛知県一宮市松降2丁目5番7		
自己評価作成日	平成30年12月12日	評価結果市町村受理日	平成31年 1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392200206-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392200206-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	平成30年12月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

月に2回以上はお出かけをする外出レクリエーション・小旅行・毎日のお散歩やお買い物同行など、外出支援に特に力を入れております。最近では地域のふれあいサロンや町内の行事の参加など、地域の方々と一緒に楽しい時間を過ごしていただいたり、ご利用者様に喜びと楽しみ、感動を少しでも感じていただきたいと思います。また、それがご利用者様のADL低下防止や生活の質の向上に繋がっていただけるように配慮し、支援を行っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に法人や当施設の理念を掲示し、利用者様・ご家族様・職員などに広く公表しています。また新人職員には理念に対する思いを伝えていますが、また理念に対する行動目標の自己評価を個々に実施し、身近にあるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のサロン(手芸・体操・落語など)や町内の行事の参加により、顔見知りの方が出来始め、話しかけられるようになりました。「また連れて行ってね」と利用者様の楽しみとなっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に勉強会を開き、地域の方々にも知って頂けるよう努めております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に水害想定避難訓練や被災生活訓練(停電時の夜間・トイレ・食事)の報告会と話し合いを持ちました。参加者様から助言やアドバイスをいただいたりし、役立てています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず、地域包括支援センターの方か市役所の担当者様が参加されます。施設の活動報告や議事録をまとめて、毎回市役所に提出しております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待や身体拘束について、職員個別にアンケートを実施し、どこまで理解しているかを把握し、問題がある点については後から事業所内で勉強会を開きました。理解してもらうよう社内勉強会で何度も取り上げています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や事業所内勉強会を行い、不安に思っていることやケアの方法などを話し合っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者のみ成年後見人の外部研修に出かけたが、現入居者様で該当する方が見えない為、意識が低いです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	後に問題が生じてしまう可能性があるような内容等もあるので、十分な説明を行うようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	申し送りノートの活用などで、入居者様やご家族様のご意見を軽視することなく、職員全体での課題として検討する。共通認識をする。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット毎にミーティングを行い、意見を聞く機会を設けてます。また今年から職員全員に人事考課表を記入して頂き、その後個人面談を行い個々の思いや挑戦してみたい事を聞く機会を作りました		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年から職員全員に人事考課表を記入して頂き、その後個人面談をおこなっております。思いや挑戦してみたい事を聞き、モチベーションアップを図っています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会などを開催すると共に、外部研修にも勤務扱いで参加してもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外の会議や研修に参加して同業者との意見交換や交流する機会がある。また地域のネットワークにも参加してサービス向上にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを丁寧に行い、ご本人様からの聞き取りが難しい時は、ご家族様や以前のケアマネ様から聞く機会を設けています。入所当初は、こまめに職員間で情報交換、共有し関係作りを大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様と一緒に支えていく事、協力が必要な事をお伝えした上で、入所当初は、こまめにご家族様と連絡したり話をしたりして、困っていることや要望に耳を傾け関係づくりにも努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多角的な視点での提案やアドバイスを心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ることを見つけ発揮できるように環境を整えて働きかけています。職員と入居者様と言った関係ではなく、一番の理解者である関係性を気付くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	悩みを共有したり、愚痴を聞いて差し上げたりする事で、少しでもご家族様の気が楽になるのであれば、そのような存在でありたいと考えます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大学の友人達との昼食会を20年来続けている利用者様がおられ、ご家族様と協力し、出来るだけ継続できるよう支援しています。他にもお友達との喫茶店でのモーニングなど、ご家族様と協力し合い、絆がきれないように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性が悪かったり、希薄だったりする場合には、間に職員が入り、協力関係が築きあげられるような配慮をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状・暑中見舞い・面会などを通じて、これまでの関係性を大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを汲み取れるように、言葉・表情等に配慮しながら言葉にならない思いを感じる事が出来るように努力している。月1回のモニタリングやカンファレンスで話し合い、職員間で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント以後、知りえた情報などは、アセスメント表に書き加えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声掛けを常に忘れず、顔色や表情などから、いつもの状態と違いないか、申し送りやスタッフから今の状態を伺ったり、常に状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、ケアプランの見直しを行なっている。前もってスタッフより今の問題点や意見などを提出してもらっている。ご家族様のご意見も反映できるよう伺っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が記録したファイルがある場所を把握しており、時間があれば見れるようにしてある。申し送りノート・入居者様ノートと分けて、出勤時は、必ず見てからケアに入るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	情報に応じて柔軟な対応で、いろんな視点から支援が行なえるよう今後取り組んでいく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方の馴染みのお店に、ランチを食べに行ったり、地域のふれあいサロンに参加したり、フラメンコ・民謡・盆踊りサークル・カラオケなど地域のボランティアによる慰問を受け交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	情報提供を医師に提出することにより、ホームでの状態を的確に把握して頂くよう、心がけている。情報提供表を希望されるご家族には医師に提出したものと一緒の物をお渡ししている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、訪問時ご本人様の状態をお伝えしたり、又スタッフには言えないことなどの、真意を伺ってもらい、ホームで知ることにより、今後のケアに活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当のソーシャルワーカーに、情報を伺い、長期入院になる場合は、退院時、担当者会議を開いていただけるよう、ご依頼している。施設サマリーや退院時のサマリーは必需となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、重度化した場合における指針やこの施設で対応出来る医療について説明を行い、ご本人様やご家族様の思いや希望をお聞きしています。また実際に重度化した時は、何度もご家族様と話し合いをし、情報共有に努めております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時の対応法の勉強会を開催しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回偶数月に避難訓練を実施しております。夜間の火災訓練、水害対策の訓練、今年は被災したと想定し、被災生活体験も実施しました。地域の方々には、運営推進会議を通じて、協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳や虐待に対する勉強会を実施しており、常に言動や対応について考える機会をつくり、職員で注意しあえる関係づくりを心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、選択肢を用意して選んでいただける環境をつくり、自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りで対応できるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をしたり、髭をそったり、髪を整えて頂いております。選ぶことができる方は、ご自身で洋服を選んでもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を把握し声掛けにより、盛り付け・お盆拭き・食卓拭き・食器拭き等、細分化してお手伝いをして頂いております。今年はクリスマスにランチビュッフェを行い選択しながら楽しく食べて頂くと思っています。おやつレクも月1回行ってます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく献立をたて、どのような物を食しているか把握できている。時間に関係なく、水分は飲みたい時に飲んでいただけるよう、また、少ないようであれば声掛けをしている。介護記録に摂取量を記録し全体重の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っております。週1回口腔衛生に歯科医の往診があり希望者は、受けてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、布パンツを着用頂けるよう失禁の少ない入居者様に関しては試みている。パットの種類の検討も日頃の状況を見て決めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の冷水やオリゴ糖の摂取等、個々の状態に応じて予防に取り組んでいる。頑固な便秘には、医療と連携してその方にあった服薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間が決まっていますが、個々の希望にそっていないが、1日おきで4～5名様と、時間を気にせずゆったりと入れるように心がけている。今年からリフトを導入し、介護度が高い方もゆったり湯船に浸かって頂き、喜んでもらっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の部屋の為、夜にひびかない程度の休息は、いつでも自己の居室で休めるようになっている。1週間に1回はシーツ交換施行		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更時は、必ず職員に伝達を行ない、様子観察を促している。又、前もって調剤薬局と連携をとり、どのような副作用が起こるか等は把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常日頃、利用者様の役割・楽しみごとを追及して、提供できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	午前、出来る限り散歩に出かけるように努めている。散歩に出かける公園や神社が3カ所あり、ご希望を伺いながら出かけるようにしている。外出レクは月2回・年に2回遠足があり、利用者様にいきたいところをお聞きし行くもある。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内では、ご本人様同士の貸し借りが発生しトラブルになりかけたため、それ以後はお小遣いはほとんどの方、事務所管理となる。ご自身で管理できる方に関しては、ご家族様がお金を直接お渡ししています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族との関係を見極めながら取り次ぐようにしているが、ご本人様が希望する場合は、入居者様の状態の応じて検討している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の応じて、壁飾りを替えたりし季節感を出しています。Aユニットの方は、生け花がお好きな方が数名いらっしゃるのので、施設でお花を用意し、思い思いに活けて頂き展示しております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファは9名全員座れるので、リビングに集まられてTVを楽しんだり、談話されて見える。東側の窓近くに長椅子を置くことにより、外を見ながらひとりの空間を楽しまれたり、落ち着ける環境作りを検討している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、出来るだけご自宅でご使用させて頂いて家具などをお持ちいただけるようにお話している。使い慣れた馴染みのあるものを居室に置いた頂いている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適宜 手すりなどを設け、安全に歩行できるように配慮している。トイレが分かりやすいような工夫をしている。居室についても自室と分かり易いようにしています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392200206		
法人名	株式会社 イズミ		
事業所名	グループホーム真清田 (Bユニット)		
所在地	愛知県一宮市松降2丁目5番7		
自己評価作成日	平成30年12月12日	評価結果市町村受理日	平成31年 1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392200206-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392200206-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	平成30年12月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

月に2回以上はお出かけをする外出レクリエーション・小旅行・毎日のお散歩やお買い物同行など、外出支援に特に力を入れております。最近では地域のふれあいサロンや町内の行事の参加など、地域の方々と一緒に楽しい時間を過ごしていただいたり、ご利用者様に喜びと楽しみ、感動を少しでも感じていただきたいと思います。また、それがご利用者様のADL低下防止や生活の質の向上に繋がっていただけるように配慮し、支援を行っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に法人や当施設の理念を掲示し、利用者様・ご家族様・職員などに広く公表しています。また新人職員には理念に対する思いを伝えていますが、また理念に対する行動目標の自己評価を個々に実施し、身近にあるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており、回覧板を回したり、朝の挨拶を交わしたり、地域の方に運営推進会議に参加して頂いたり顔なじみの関係になってきている。直接ホームに来られ相談事を話される方もおり、地域の方に認識されてきている実感がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に勉強会を開き、地域の方々にも知って頂けるよう努めております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に水害想定避難訓練や被災生活訓練(停電時の夜間・トイレ・食事)の報告会と話し合いを持ちました。参加者様から助言やアドバイスをいただいたり、役立てています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には必ず、地域包括支援センターの方か市役所の担当者様が参加されます。施設の活動報告や議事録をまとめて、毎回市役所に提出しております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待や身体拘束について、職員個別にアンケートを実施し、どこまで理解しているかを把握し、問題がある点については後から事業所内で勉強会を開きました。理解してもらうよう社内勉強会で何度も取り上げています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修などに参加して、虐待ゼロを目指して取り組んでいる。スピーチロックなど意識しないと起こりやすいと言う認識をもち、職員同士が注意や指摘が出来る風通し良い環境作りに努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者のみ成年後見人の外部研修に出かけたが、現入居者様で該当する方が見えない為、意識が低いです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様が今後の入居に対して不安を抱かない様説明して理解頂けるように図っています。ホームで出来る事・出来ない事を踏まえてお話をさせて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の面会時にお話をさせていただいておりますが、なかなかお会いできない事もあります。毎月、請求書と一緒に近況報告しております。スタッフも気楽に話せる雰囲気作りに努めます。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談も行いますが、常に話しやすい関係づくりに努め、休憩時や退勤時などに声掛けをして、意見やスタッフの思いに近づける様努力しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年から職員全員に人事考課表を記入して頂き、その後個人面談をおこなっております。思いや挑戦してみたい事を聞き、モチベーションアップを図っています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に外部研修に参加して頂く機会を設け、ホームに資料を持ち帰り、勉強会と題して発表していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外の会議や研修に参加して同業者との意見交換や交流する機会がある。また地域のネットワークにも参加してサービス向上にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを丁寧に行い、ご本人様からの聞き取りが難しい時は、ご家族様や以前のケアマネ様から聞く機会を設けています。入所当初は、こまめに職員間で情報交換、共有し関係作りを大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様と一緒に支えていく事、協力が必要な事をお伝えした上で、入所当初は、こまめにご家族様と連絡したり話をしたりして、困っていることや要望に耳を傾け関係づくりに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要な支援なのか、スタッフに意見を伺いながら見極め、導入するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームなので、入居者様同士だけでなく職員と入居者様間でも支えあう環境があってもいいように考えます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも、御家族様等の面会可能であり、外出や外泊、又定期受診はご家族様対応にて、家族の絆を大切にしています。ご本人様に対し、ご家族様が不安と思っ見える事は、こちらが察して、伺うようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく馴染みの関係が継続するように努めている。以前の町内の方やお友達が見えることもあります。お互いに高齢で移動手段などで難しい事もあり、ご家族様の協力が必要となります。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を日々、スタッフが理解して席の配慮したり、利用者様の間に入りトラブルにならないよう配慮を行なっている。支え合っている雰囲気作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状・暑中見舞い・面会などを通じて、これまでの関係性を大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動・表情から利用者様の想いをうけとり出来るだけご本人様本位に努めております。全スタッフが同じ思いで支援できるよう、努めて行きます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	失礼の無い範囲で、ご家族様より情報をいただき、信頼関係を構築していきながら更に情報を得ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限り、意向に沿えるように努めております。無理強いすることなく、楽しく過ごしていただきたいと考えております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族へのヒアリングや職員のミーティングなどを通じて、些細な気付きにも全力で向き合い、プランの参考にしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート・入居者様ノートと分けて、出勤時は必ず見てからケアに入っている。介護記録などの記録物は、直ぐ確認できるように身近なところに保管してあり、確認も簡単に行える。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な発想が出るような環境ではあるが、リスク等を勘案しながら取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方の馴染みのお店に、ランチを食べに行ったり、地域のふれあいサロンに参加したり、フラメンコ・民謡・盆踊りサークル・カラオケなど地域のボランティアによる慰問を受け交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所での情報を医師に伝達するなどして適切な医療が受けられるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在Bユニットでは、訪問看護師に来ていただけないが、重度化した場合など医師の指示があれば訪問看護のサービスが受けられる事になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当のソーシャルワーカーに、情報を伺い、長期入院になる場合は、退院時、担当者会議を開いていただけるよう、ご依頼している。施設サマリーや退院時のサマリーは必需となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様・ご本人様が、望まれている生活をホームで送れるよう、意向などのアンケートを配布して把握している。新しく入られた入居者様には、最初から重度化した場合どうされるのかご希望を伺い、グループホームで出来る事、出来ない事をお伝えしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時の対応法の勉強会を開催しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施していくことで、いざ直面しても混乱することなく避難誘導や初期消火が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	大切にできるように心がけています。ご本人様が希望すれば居室の施錠もしている。言葉かえの対応のむずかしさを感じている。勉強会を開いて職員皆で取り組んでいます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様がお気持ちを表明出来る様な、人間関係の維持に努めている。出来る限り自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	計画性の無いレクや行事はリスクマネジメントが出来ないので、可能な限りで対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様が、好きな服装が出来る様、自己選択に心掛けている。一人一人に合わせた身だしなみに心掛けています。月に1回の訪問理美容、ご希望者様には自己負担で利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「これが食べたい」「あれが食べたい」と利用者様のリクエストがあり、ご希望に添えるよう献立に反映している。月に1度おやつレクがあり、利用者様がメインでおやつを作成します。皆さん大変楽しみにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った形態や食事量を配慮して提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い清潔を保っている。歯ブラシ・スポンジなど個人に合わせた物を用意している。ご自分で出来る方には声掛けをしています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をとり、パターンを見だしトイレ誘導を行い、出来るだけトイレで排泄出来るようにしている。パットの種類の検討も日頃の状態を見て、皆で話し合っていて決めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の冷水やオリゴ糖の摂取等、個々の状態に応じて予防に取り組んでいる。頑固な便秘には、医療と連携してその方にあった服薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後に入浴時間を設けている。入る時間は決まっているが1日4名位は入浴できるように心がけて、ゆったりと入れるように心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態を把握して、その時の状況に合わせて休んでいただけるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局様に薬の管理を依頼して、薬が変わった時等、相談できる体制が整っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常日頃、利用者様の役割・楽しみごとを追及して、提供できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前、出来る限り散歩に出かけるように努めている。散歩に出かける場所をご利用者様で決めて職員は同行するような形で参加しています。ルートも利用者様ですが、どうしようかと相談し職員は危険でない限り賛同しついていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内では、ご本人様同士の貸し借りが発生しトラブルになりかけたため、それ以後は原則お小遣いは事務所管理となりました。ご自身で管理できる方に関しては、ご家族様がお金を直接お渡ししています。2名		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちになっていらっしゃる方が見えます。その方以外は自ら電話をされることなく、生活されて見える。年賀状など、手紙のやり取りの支援はしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の応じて、壁飾りを替えたりし季節感を出しています。Bユニットの方はAユニットと違い、生け花はやられないが、花の苗を植えるのがお好きなので、花壇やプランターを用意し、自由に植えていただき水やりなどをしていただいています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニング・ソファ・長椅子等を眺めれる場所等はある。思い思いの場所で過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、うちでご使用させて頂いて家具などをお持ちいただけるようにお話している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適宜 手すりなどを設け、自立支援に向けた環境を整えている。		